

政策課題研究 3

多面的機能の発揮に必要な森林管理モデルの構築に関する研究

【研究概要】

自然のサイクルで多面的機能が維持される環境林において、地域の特徴に応じた森林づくりを進めるため、森林の種組成や資源量などの情報基盤の構築手法を開発します。また、資源の循環利用を促進する循環林において、炭素固定や水源かん養等の多面的機能が持続的に発揮される森林づくりのため、主伐と多面的機能との関係性に関する数理モデルを構築して、循環林の伐採方法を検討します。

【サブテーマ】

- ① 広葉樹誘導で求められる情報基盤の構築手法の開発
- ② 主伐が水および炭素の循環に及ぼす影響の分析手法の開発

【現状・課題】

環境林

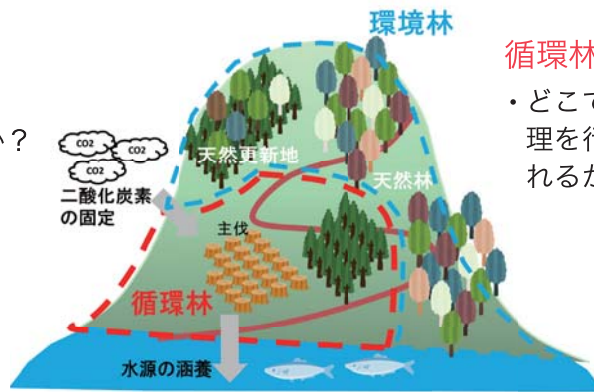
- ・ 森林情報の不足
- ・ どのように情報基盤を構築するのか？

自然情報 + 社会情報



循環林

- ・ どこで、どのような森林管理を行えば多面的機能を守れるか？



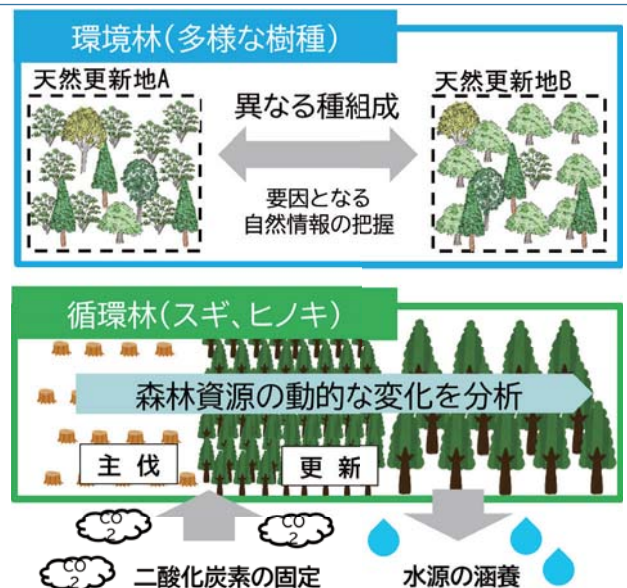
【課題解決に向けて】

1 森林の情報基盤の構築

- 天然更新地における広葉樹誘導に着目
- ・ 種子供給源となる天然林の林相および種組成の把握手法の検討
 - ・ 樹木の成長に影響する自然情報の把握手法の検討

2 主伐が森林の多面的機能に与える影響の分析

- 炭素固定と水源かん養の両機能に着目
- ・ 炭素固定と水源かん養の両機能を評価するための森林資源の動態モデルの作成
 - ・ 両機能を保全しながら森林資源を循環利用するための伐採方法の検討



- ・ 環境林における広葉樹誘導の知見を提供し、計画策定を推進する。
- ・ 循環林における主伐の知見を提供し、計画策定を推進する。